第 13 講 【近代編】産業革命と大西洋革命
PART2 イギリスの産業革命

Chapter 1　産業革命の背景と発明

目標
イギリスになぜ工場労働力が豊富に存在したのかを考えよう。
綿布の機械化の流れを学ぼう。

1　イギリス産業革命の背景

18 世紀後半，「**資本**の形成」「**市場**の確保」「**労働力**の確保」の３つの条件を満たしたイギリスで，世界に先駆けて産業革命がはじまった。

①資本の形成
　A　大西洋を舞台に展開した**大西洋三角貿易**で莫大な利益を得る
　B　主要産業の**毛織物業**が繁栄

②市場の確保
　植民地戦争に勝利し，**北アメリカ**や**インド**などに広大な植民地を獲得
　→植民地で綿織物の原料である綿花を栽培させ，自国の製品を輸出

③労働力の確保
　A　**新農法**（ノーフォーク農法）の普及
　　※ノーフォークで開発された輪作法で，農業生産が飛躍的に増大（**農業革命**）。
　B　新農法導入のため〔　　　　　　　　　　　〕（**エンクロージャー**）が進行
　　※議会の承認のもと，地主たちが農民から農地を合法的に取り上げて囲い込む。
　　→土地を失った農民が都市へ流入し，**工場労働者**となる

④豊富な資源と科学技術の発展
　A　鉄鉱石や石炭などの資源に恵まれていた
　B　科学革命を背景とする機械工学の伝統があった

2　綿工業の機械化

①イギリスの産業革命は**綿織物**の機械化を中心に進展
　※ 17 世紀以降にインドから安価な綿織物（キャラコ）が輸入されると，毛織物に比べて丈夫で染色も容易なことから大流行。政府はインド産綿布の輸入を禁止。

→インド産綿布に代わる国産の綿織物の必要性が高まり，織布・紡績の機械化が進む

②織布・紡績の技術革新

1733年 〔　　　　　　　　　　〕が織布用具の〔　　　　　〕を発明

※織布の作業能率が向上し，織布の生産が倍増。

→原料の綿糸の不足を引きおこし，紡績機の発明を促す

1764年頃 〔　　　　　　　　　　〕が〔　　　　　　　　　　〕（多軸紡績機）を発明

※一度に複数の糸をつむぐことができるようになる。

1769年 〔　　　　　　　　　　〕が**水力紡績機**を発明

※ジェニー紡績機を改良したもので，糸の生産力が飛躍的に高まる。

1779年 〔　　　　　　　　　　〕が〔　　　　　　　　　　〕を発明

1785年 〔　　　　　　　　　　〕が〔　　　　　〕を発明

※ワットが改良した蒸気機関を動力源とした織機。

3 産業革命におけるさまざまな発明

1709年 〔　　　　　　　〕（父）がコークス燃料による**製鉄法**を発明

1735年 **ダービー（子）**がコークス製鉄法実用化に成功

→鉄の大量生産が可能になる

1769年 **ニューコメン**が考案した**蒸気機関**を〔　　　　　〕が改良

→さまざまな機械に動力として利用される

1793年 アメリカの〔　　　　　　　　　　〕が〔　　　　　　〕を発明

1807年 アメリカの〔　　　　　　〕が**蒸気船**クラーモント号を建造

→蒸気を動力にして進む外輪式蒸気船で，やがて帆船に取って代わった

1814年 〔　　　　　　　　　　〕が〔　　　　　　　　〕を改良

※蒸気機関を動力とする機関車で，1825年に実用化に成功。

蒸気船や蒸気機関車の発明は，交通機関や交通網を発展させた（**交通革命**）

まとめ

農業革命によって第二次囲い込みが進むと，失地農が都市に流入して工場の労働力となった。

ジョン＝ケイが飛び杼を発明すると，糸をつくる紡績機が進化を重ねていき，カートライトが力織機を発明した。

Chapter 2　イギリス産業革命の影響

目標
産業革命の結果，どのような問題が生まれたのかを考えよう。
産業革命によって発展した都市を学ぼう。

1　資本主義体制の成立と労働問題

①産業革命の影響

工場で機械によって製品を生産する工場制機械工業が普及

→**産業資本家**（資本を持つ経営者，〔　　　　　　　　　　　　〕）が労働者

（〔　　　　　　　　　　　　〕）を雇用して商品を生産し，利潤を得る経営形態

〔　　　　　　　　〕体制が確立

②労働問題の発生

A　安価な労働力として，女性や子どもが雇用される

B　劣悪な労働環境のもと，低賃金で長時間労働を強制される

→産業資本家と労働者が対立

③労働組合の結成

1799 年　団結禁止法を制定

※労働者の結社を禁止し，労働組合を違法とする。

1810 年代　手工業者，労働者による機械打ちこわし運動（〔　　　　　　　　　　　　〕）がピークを迎える

1824 年　団結禁止法が廃止される

→労働者が〔　　　　　　　　〕を結成

2　新興工業都市の発展

産業革命によって工業が盛んになると，工業都市に人口が集中して都市化が急速に進んだ。

①〔　　　　　　　　　　　　〕

イギリス中西部にある工業都市。産業革命期には，綿織物業の中心地として繁栄

②〔　　　　　　　　　　　　〕

マンチェスターの外港。マンチェスターで生産された綿製品の輸出港として繁栄

→ 1830 年に，マンチェスター・リヴァプール間に鉄道が開通

③バーミンガム

イギリス中部にある工業都市。周辺に石炭・鉄鉱石の産地があり，産業革命期には，製鉄業や機械工業の中心都市として繁栄

新興工業都市

3　産業革命の波及

1774 年　イギリスが機械の輸出を禁止

1825 年　イギリスが機械の輸出を一部解禁

1830 年代　七月革命（1830 年）後の**フランス**で産業革命がはじまる

独立を正式に承認（1831 年）された**ベルギー**で産業革命が進展

アメリカ = イギリス戦争（1812 年～ 14 年）後の**アメリカ**で産業革命がはじまる

1840 年代　**ドイツ**で産業革命が本格化

1890 年代　露仏同盟以降，**ロシア**で産業革命がはじまる

日清戦争（1894 年～ 95 年）前後から**日本**でも産業革命がはじまる

まとめ

産業革命の結果，資本主義が確立し，労働環境の悪化による長時間労働などの問題が発生した。

綿工業のマンチェスター，外港のリヴァプールなどが新興工業都市として発展した。

第 13 講　PART 2　確認問題

1 18 世紀後半，世界で最初に産業革命がはじまった国はどこか。

① オランダ　② ドイツ
③ イギリス　④ フランス

2 イギリスの産業革命の発端となった工業分野はどれか。

① 綿工業　② 毛織物業
③ 鉄鋼業　④ 製紙業

3 18 世紀後半に力織機を発明した人物はだれか。

① アークライト　② カートライト
③ クロンプトン　④ ハーグリーヴズ

4 19 世紀前半にスティーヴンソンが実用化したものはどれか。

① 蒸気機関　② 蒸気船
③ コークス製鉄法　④ 蒸気機関車

5 産業革命によって普及した生産様式はどれか。

① 工場制手工業　② 工場制機械工業
③ 問屋制家内工業　④ 家内制手工業

6 1810年代にピークを迎えた，労働者による機械打ちこわし運動はどれか。

① エンクロージャー　② レコンキスタ
③ ラダイト運動　④ チャーティスト運動

7 産業革命期に製鉄業や機械工業の中心都市として栄えた，イギリス中部の都市はどこか。

① バーミンガム　② ノッティンガム
③ マンチェスター　④ リヴァプール

8 ドイツで産業革命が本格化したのはいつ頃のことか。

① 18世紀後半　② 1830年代
③ 1840年代　④ 1890年代

第 13 講　PART 2　確認問題 解答

1 解答：③　**イギリス**は 18 世紀後半に資本の形成，市場確保，労働力の確保の 3 つの条件を満たし，世界に先駆けて産業革命がはじまった。

2 解答：①　イギリスの産業革命は**綿工業**の機械化を中心に進展していった。

3 解答：②　**カートライト**が発明した力織機は蒸気機関を動力源としたもので，綿布の生産を飛躍的に増大させた。

4 解答：④　スティーヴンソンは蒸気機関を動力とする**蒸気機関車**を改良した。

5 解答：②　産業革命により，工場で機械によって製品を生産する**工場制機械工業**が普及した。

6 解答：③　**ラダイト運動**は失業のおそれを感じた手工業者，労働者による機械打ちこわし運動。

7 解答：①　**バーミンガム**の周辺には石炭・鉄鉱石の産地があるため，産業革命期には製鉄業や機械工業の中心都市として栄えた。

8 解答：③　ドイツで産業革命が本格化したのはフランスやベルギー，アメリカから少し遅れた **1840 年代**だった。